

2021年6月7日

株 主 各 位

第 74 回定時株主総会招集ご通知に際しての

インターネット開示事項

連 結 注 記 表

個 別 注 記 表

第 74 期

自 2020年4月 1日

至 2021年3月 31日

「連結注記表」および「個別注記表」につきましては、法令および当社定款の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.primaham.co.jp>) に掲載することにより株主の皆様にご提供しております。

プ リ マ ハ ム 株 式 会 社

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

#### (1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数	31社
主要な連結子会社の名称	プライムデリカ(株)、プリマ食品(株)、プライムフーズ(株)、太平洋ブリーディング(株)

当連結会計年度において株式取得に伴い、タッキーフーズ株式会社及び有限会社エクセルファームを連結の範囲に含めております。

また、当連結会計年度において、当社の連結子会社であるプライムデリカ株式会社が同じく連結子会社であった熊本プリマ株式会社を吸収合併したことから、同社を連結の範囲から除外しております。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

持分法適用関連会社の数	2社
主要な持分法適用関連会社の名称	(株)プライムベーカーリー、Swine Genetics International, Ltd.

当連結会計年度において当社の持分法適用関連会社であった株式会社 Global Meat Investment Partners の清算終了及び康普(蘇州)食品有限公司の売却等により、持分法適用関連会社数は3社減少しております。

持分法適用関連会社は決算日が連結決算日と異なるため、原則として連結決算日現在で本決算に準じた仮決算を行った計算書類を基礎としております。なお、一部の会社については持分法を適用する上で必要な修正を行っております。

#### (3) 会計方針に関する事項

##### ① 重要な資産の評価基準および評価方法

a 有価証券	満期保有目的の債券	償却原価法(定額法)
	その他有価証券	
	・時価のあるもの	決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
	・時価のないもの	移動平均法による原価法
b デリバティブ	時価法	
c たな卸資産	主として移動平均法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)	

##### ② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

a 有形固定資産 (リース資産を除く)	定率法	ただし、当社の建物(建物附属設備を除く)、国内連結子会社の1998年4月1日以降新規に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物、在外子会社の資産は定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
	建物および構築物	15~38年
	機械装置および運搬具	5~10年

b 無形固定資産 定額法 ただし、ソフトウェア（自社利用分）については社内における見積利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。  
（リース資産を除く）

c リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

a 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

b 賞与引当金 従業員の賞与支払に備えるため、主として将来の支給額を見積り、これに基づいて計上しております。

c 役員賞与引当金 役員の賞与支払に備えるため、将来の支給額を見積り、これに基づいて計上しております。

d 役員株式給付引当金 役員の業績連動型株式報酬の支給および支払に備えるため、将来の支給額を見積り、これに基づいて計上しております。

④ のれんの償却方法及び償却期間

のれんについては、5～10年間の定額法により償却しております。

⑤ その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

a 退職給付の会計処理の方法

従業員等の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により発生翌連結会計年度から費用処理しております。

また、退職給付信託を設定しております。

未認識数理計算上の差異の未処理額については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

b ヘッジ会計の処理

原則として繰延ヘッジ処理によっております。

なお、金利スワップについて特例処理の条件を満たしている場合には特例処理を採用しております。

c 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産、負債、収益および費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定および非支配株主持分に含めております。

d 消費税等（消費税および地方消費税）の会計処理は税抜方式を採用しております。

## 2. 表示方法の変更に関する注記

### （連結貸借対照表）

前連結会計年度において、流動資産の「たな卸資産」に含めて表示しておりました「商品及び製品」、「仕掛品」、「原材料及び貯蔵品」は明瞭性を高めるため、当連結会計年度より独立掲記しております。

### （連結損益計算書）

前連結会計年度において、営業外収益の「受取利息及び配当金」に含めて表示しておりました「受取利息」、「受取配当金」は明瞭性を高めるため、当連結会計年度より独立掲記しております。

前連結会計年度において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「受取地代家賃」、「為替差益」、「補助金収入」は重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

前連結会計年度において、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりました「資金調達費用」、「たな卸資産廃棄損」は重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

前連結会計年度において、特別損失の「固定資産除売却損」に含めて表示しておりました「固定資産売却損」、「固定資産除却損」は明瞭性を高めるため、当連結会計年度より独立掲記しております。

前連結会計年度において、特別損失の「その他」に含めて表示しておりました「投資有価証券売却損」、「投資有価証券評価損」は重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

### （「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用）

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当連結会計年度より適用し（会計上の見積りに関する注記）を開示しております。

## 3. 会計上の見積りに関する注記

### 固定資産の減損

プリマハム株式会社及びプライムデリカ株式会社の一部工場で、工場移転又は設備投資の計画変更が予定されております。

当該資産グループにおいて、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであること又は資産グループを予定よりも著しく早期に処分することを減損の兆候として減損損失の認識の判定を実施いたしました。

### (1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

減損損失計上金額	- 百万円
対象となる資産グループの固定資産の帳簿価額	17,343 百万円

### (2) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

#### ① 金額の算出方法

割引前将来キャッシュ・フローは経営会議等で承認された3年間の事業計画とその後の売上高成長率を基礎として見積りました。

3年間の事業計画における主要な指標は売上高成長率及び売上原価率であります。

土地の正味売却価額も将来キャッシュ・フローの見積りに反映しております。

減損損失の認識の判定で見積った割引前将来キャッシュ・フローの総額が、資産グループの固定資産の帳簿価額を十分に上回るため、減損損失は認識しておりません。

## ② 金額の算出に用いた主要な仮定

- ・営業活動から生ずる損益が継続してマイナスの資産グループ

割引前将来キャッシュ・フローの算出に用いた主要な仮定は、売上高成長率及び売上原価率であります。売上高成長率は2020年度における実績は前年比113%であります。新型コロナウイルスによる巣ごもり需要の影響が落ち着くことを考慮して2021年度以降9年間は105%～107%としております。

2030年度以降は2029年度と同程度の売上高と見積りました。

売上原価率は設備投資による生産効率の向上、製造工程の合理化への取り組み計画を3年間の事業計画期間において反映、その後は売上の増加にあわせて逡減すると見積りました。

- ・資産グループを予定よりも著しく早期に処分する資産グループ

工場移転までの2事業年度における事業計画に基づき割引前将来キャッシュ・フローを算出しました。売上高及び売上原価ともに直近年度実績水準で見積りました。

## ③ 翌年度の連結計算書類に与える影響

主要な仮定である売上高成長率は、見積りの不確実性があり、2021年度以降成長率が鈍化する可能性があります。割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を十分に上回っており、仮定が合理的な範囲で変化しても減損損失の認識には至らないと想定されます。

## 4. 追加情報

### 取締役及び執行役員に対する業績連動型株式報酬制度

当社は、2018年6月28日開催の第71回定時株主総会の決議に基づき、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めるために、取締役（非常勤取締役を除く。）を対象とする株式報酬制度「株式給付信託（BBT）」（以下、「本制度」という。）を導入しております。

なお、2019年5月13日開催の取締役会において、上記の対象者を「取締役」から「取締役及び取締役を兼務しない執行役員の一部」に変更することを決議しております。

### (1) 取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託（以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」という。）を通じて非常勤取締役を除く取締役及び取締役を兼務しない執行役員の一部（以下、「取締役等」という。）に対して、当社が定める役員株式給付規定に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭（以下、「当社株式等」という。）が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度です。なお、取締役等が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役等の退任時となります。

### (2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、本信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当連結会計年度末における当該自己株式の帳簿価額は243百万円、株式数は91千株であります。

## 5. 連結貸借対照表に関する注記

### (1) 担保提供資産

① 担保に供している資産	建物および構築物	1,066百万円
	機械装置および運搬具	34百万円
	土地	175百万円
	固定資産その他	1百万円
	定期預金	5百万円
② 担保に係る債務	買掛金	6百万円
	1年内返済予定長期借入金	149百万円
	長期借入金	617百万円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 101,013百万円

減損損失累計額は、減価償却累計額に含めております。

### (3) 保証債務

連結会社以外の会社等の銀行借入金等に対して債務保証を行っております。

業務委託先	11
計	11百万円

## 6. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

### (1) 当連結会計年度の末日における発行済株式の総数

普通株式 50,524,399株

### (2) 配当に関する事項

#### ①配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	2,013	40.00	2020年3月31日	2020年6月29日
2020年11月9日 取締役会	普通株式	1,006	20.00	2020年9月30日	2020年12月1日

(注)1. 2020年6月26日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式給付信託（BBT）にかかる信託口が保有する当社株式に対する配当金額3百万円が含まれています。

2. 2020年11月9日取締役会決議による配当金の総額には、株式給付信託（BBT）にかかる信託口が保有する当社株式に対する配当金額1百万円が含まれています。

#### ②基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	3,272	65.00	2021年3月31日	2021年6月30日

(注)2021年6月29日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式給付信託（BBT）にかかる信託口が保有する当社株式に対する配当金額5百万円が含まれています。

## 7. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

受取手形および売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規定に沿ってリスクの低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っています。

借入金の使途は運転資金（主として短期）および設備投資資金（長期）であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。なおデリバティブは内部管理規定に従い、実需の範囲で行うこととしております。

### (2) 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金および預金	12,968	12,968	—
(2) 受取手形および売掛金	43,435	43,435	—
(3) 預け金	20,016	20,016	—
(4) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	9	10	0
その他有価証券	5,062	5,062	—
(5) 支払手形および買掛金	47,958	47,958	—
(6) 短期借入金	765	765	—
(7) 長期借入金 (*)	19,766	19,849	82
(8) デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されていないもの	—	—	—
ヘッジ会計が適用されているもの	△1	△1	—

(注) 1. \*印は1年内返済予定長期借入金を含めております。

#### 2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

##### (1) 現金および預金、(2) 受取手形および売掛金、並びに(3) 預け金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

##### (4) 投資有価証券

これらの時価について、株式および債券は取引所の価格によっております。

##### (5) 支払手形および買掛金、並びに(6) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

##### (7) 長期借入金

長期借入金の時価については元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定される方法によっております。但し変動金利による長期借入金については、金利スワップの特例処理の対象とされており当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

(8) デリバティブ取引

デリバティブの時価は、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

3. 非上場株式（連結貸借対照表計上額1,125百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、(4)投資有価証券「その他有価証券」には含めておりません。

8. 賃貸等不動産に関する注記

当社グループが有しているすべての賃貸等不動産については、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

9. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額 2,062円41銭

1株当たり当期純利益額 281円90銭

(注) 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めており、また、1株当たり当期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1株当たり純資産額の算定上、控除した自己株式の期末株式数は91千株であり、1株当たり当期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は91千株であります。

10. 重要な後発事象

該当事項はありません。

11. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準および評価方法

##### ① 有価証券

子会社および関連会社株式

移動平均法による原価法

その他の有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております）

時価のないもの

移動平均法による原価法

##### ② デリバティブ

時価法

##### ③ たな卸資産

移動平均法（ただし、牛枝肉については個別法）による原価法  
（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産

（リース資産を除く）

定率法（ただし、建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物および構築物 15～38年

機械装置および工具器具備品 5～10年

##### ② 無形固定資産

（リース資産を除く）

定額法（自社利用のソフトウェアについては、社内における見積利用可能期間（5年）に基づく定額法）

##### ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### (3) 引当金の計上基準

##### ① 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### ② 賞与引当金

従業員の賞与支払に備えるため、将来の支給額を見積り、これに基づいて計上しております。

##### ③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当事業年度において発生していると認められる額を計上しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分

した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。  
また、退職給付信託を設定しております。

- ④ 役員株式給付引当金 役員の業績連動型株式報酬の支給および支払に備えるため、将来の支給額を見積もり、これに基づいて計上しております。

(4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- ① ヘッジ会計の処理 原則として繰延ヘッジ処理によっております。  
なお、金利スワップについて特例処理の条件を満たしている場合には特例処理を採用しております。

- ② 消費税等（消費税および地方消費税）の会計処理は、税抜方式を採用しております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(損益計算書)

前事業年度において、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりました「資金調達費用」は重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度より適用し(会計上の見積りに関する注記)を開示しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

・固定資産の減損

プリマハム株式会社の一部工場で、工場移転が予定されております。

当該資産グループにおいて、資産グループを予定よりも著しく早期に処分することを減損の兆候として減損損失の認識の判定を実施しました。

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

減損損失計上金額	- 百万円
対象となる資産グループの固定資産の帳簿価額	2,243百万円

(2) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

① 金額の算出方法

割引前将来キャッシュ・フローは経営会議等で承認された3年間の事業計画とその後の売上高成長率を基礎として見積っております。

3年間の事業計画における主要な指標は売上高成長率及び売上原価率であります。

土地の正味売却価額も将来キャッシュ・フローの見積りに反映しております。

減損損失の認識の判定で見積った割引前将来キャッシュ・フローの総額が、資産グループの固定資産の帳簿価額を十分に上回るため、減損損失は認識しておりません。

② 金額の算出に用いた主要な仮定

工場移転までの2事業年度における事業計画に基づき割引前将来キャッシュ・フローを算出しました。売上高及び売上原価ともに直近年度実績水準で見積りました。

③ 翌年度の計算書類に与える影響

主要な仮定である売上高成長率は、見積りの不確実性がありますが、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を十分に上回っており、仮定が合理的な範囲で変化しても減損損失の認識には至らないと想定されます。

4. 追加情報

取締役及び執行役員に対する業績連動型株式報酬制度

当社は、2018年6月28日開催の第71期定時株主総会の決議に基づき、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めるために、取締役（非常勤取締役を除く。）を対象とする株式報酬制度「株式給付信託（BBT）」を導入しております。なお、2019年5月13日の取締役会において、上記の対象者を「取締役」から「取締役及び取締役を兼務しない執行役員の一部」に変更することを決議しております。

詳細は「連結注記表 4. 追加情報」をご参照ください。

5. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産および担保に係る債務

①担保に供している資産	定期預金	5百万円
②担保に係る債務	買掛金	6百万円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 44,559百万円

減損損失累計額は、減価償却累計額に含めております。

(3) 関係会社に対する金銭債権および金銭債務

短期金銭債権	4,876百万円
長期金銭債権	3,769百万円
短期金銭債務	39,981百万円

(4) 「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日公布法律第34号、平成13年3月31日改正）に基づき、2002年3月31日に事業用土地の再評価を行っております。

なお、再評価差額については、土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成11年3月31日公布法律第24号）に基づき、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価の方法 「土地の再評価に関する法律施行令」（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める地価税法により算定した金額に合理的な調整を行って算定する方法と、同条第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価を併用しております。

再評価を行った年月日	2002年3月31日
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	△4,187百万円

6. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高	売	上	高	44,048百万円
	仕	入	高	156,750百万円
	その他の営業取引			3,829百万円
	営業取引以外の取引高			1,597百万円

7. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数

株式の種類	前期末株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	275,049株	961株	71株	275,939株
合計	275,049株	961株	71株	275,939株

(注) 1. 普通株式の自己株式の当期末株式数には株式給付信託（BBT）が保有する当社株式91,400株が含まれております。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加961株は、単元未満株式の買取による増加961株であり、減少71株は単元未満株式の売却による減少71株であります。

8. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

退職給付引当金	804百万円
関係会社出資金評価損	239百万円
退職給付信託	235百万円
賞与引当金	174百万円
未払事業税等	137百万円
その他	434百万円
繰延税金資産小計	2,025百万円
評価性引当額	△276百万円
繰延税金資産合計	1,748百万円

繰延税金負債

前払年金費用	2,878百万円
その他有価証券評価差額金	602百万円
その他	36百万円
繰延税金負債合計	3,517百万円
繰延税金負債の純額	1,768百万円

再評価に係る繰延税金負債

土地再評価差額金	2,101百万円
----------	----------

9. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社および法人主要株主等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	伊藤忠商事株式会社	(被所有) 直接44.4 間接 4.5	原材料の仕入等	原材料の購入	99,918	買掛金	24,623

(注) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

取引条件および取引条件の決定方針等

原材料の購入については、伊藤忠商事株式会社以外からも複数の見積りを入手し、市場の実勢価格を勘案して仕入先を決定しております。

(2) 子会社および関連会社等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	秋田プリマ食品株式会社	(所有) 直接100.0	原材料の支給・商品の仕入、資金の貸借、役員の派遣	資金の貸借	470	預り金	2,922
子会社	プリマハムミートファクトリー株式会社	(所有) 直接100.0	原材料の支給・商品の仕入、資金の貸付、役員の派遣	資金の貸付	—	長期貸付金	1,368
子会社	プライムデリカ株式会社	(所有) 直接59.6	原材料の支給・商品の仕入、資金の貸借、役員の派遣	資金の貸借	△4,674	預り金	2,143
子会社	太平洋ブリーディング株式会社	(所有) 直接100.0	資金の貸付、原材料の仕入、役員の派遣	資金の貸付	—	長期貸付金	1,744

取引条件および取引条件の決定方針等

- ① 商品および製品の販売については、市場の実勢価格等を勘案し、協議のうえ決定しております。
- ② 資金の貸借については、当社および国内子会社との間で導入したCMS（キャッシュマネジメントサービス）による取引であり、短期間での反復取引のため、取引金額は当事業年度における預り金の純増減金額（△は純減少額）を記載しております。また、当社の短期運用利回りおよび市場金利を勘案して利率を決定しております。なお、担保は提供しておりません。
- ③ 長期貸付金の取引金額は、当事業年度における貸付金額を記載しております。利率は市場金利を勘案し、返済条件は双方で協議した上で決定しております。なお、担保は徴求しておりません。

## (3) 兄弟会社等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
兄弟会社	伊藤忠プラスチック株式会社	—	原材料の購入	原材料の購入	6,131	買掛金	2,461
兄弟会社	株式会社日本アクセス	—	商品・製品の売上	商品・製品の販売	11,952	売掛金	1,946
兄弟会社	伊藤忠トレジャリー株式会社	—	資金取引	資金の預け	10,011	預け金	20,011

- (注) 1. 資金取引はCMS等による取引であり、取引金額は預け額と預り額を相殺し、純額を記載しております。
2. 上記金額のうち、「原材料の購入」及び「商品・製品の販売」の取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

## 取引条件および取引条件の決定方針等

- ① 原材料の購入については、複数の見積りを入手し、市場の実勢価格を勘案して仕入先を決定しております。
- ② 商品および製品の販売については、独立第三者間取引における取引価格を斟酌のうえ、価格等の取引条件を交渉・決定しております。
- ③ 資金の預けについては、伊藤忠商事株式会社のグループ金融制度を利用したことによるもので、取引条件については市場金利を勘案した合理的な利率によっております。

## 10. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額 1,429円72銭

1株当たり当期純利益 175円63銭

- (注) 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めており、また、1株当たり当期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
- 1株当たり純資産額の算定上、控除した自己株式の期末株式数は91千株であり、1株当たり当期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は91千株であります。

## 11. 重要な後発事象

該当事項はありません。

## 12. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。